

自民県連会長に村上氏



村上誠一郎氏

県選出の自民党国会議員(五人)は六日、参院選愛媛選挙区での同党前職関谷勝嗣氏(六九)と公明党推薦の落選を受け、県連会長職の引責辞任を表明していた塩崎恭久官房長官(五〇)と衆院一区(二)の後任に村上誠一郎衆院議員(五五)と二区(二)を内定し、県連執行部に伝えた。

県連会長は国会議員から選出するのが慣例で、村上氏の就任は一九九三年、二〇〇一年に続いて三回目。任期は塩崎氏の残任期間の〇八年三月まで。参院選総括や県連体制の再構築に取り組む。同国会議員団は六日午

後、東京都内で断続的に会合し、全会一致で村上氏に内定したという。会合後、村上氏は「大敗の大部分の責任は(自民)党本部と内閣にあるが、愛媛選挙区での敗因

も徹底的に分析し、県連の再建に取り組みたい」と述べた。今週末にも国会議員や県連執行部、支援団体幹部などで構成する定例会合を県内でスタートさせたい考えだ。

「緊急事態」指導力に期待

解説

参院選愛媛選挙区で十八

年ぶりに喫した黒星という逆風の中、自民党県連会長に村上誠一郎氏(衆院2区)が三度(みたび)登板する。「焦眉(しようび)の急である県連体制再構築」(前会長・塩崎恭久官房長官)はもちろんだ。「地方の反乱」(衆院議員)と評される選挙結果を受け、支持基盤強化などの課題が山積している。

人選は曲折を経た。本来ならば、塩崎氏を会長に内定した二〇〇六年二月、ともに候補に浮上していた会長未経験の小野晋也氏(衆院3区)の就任が順当とみられた。しかし一転、県選出の自民党国会議員団で最も長い二十一年間(衆院当選七回)の国政経験を持つ村上氏の指導力に、期待が集まる格好となった。

村上氏は県連の現状を「緊急非常事態」と宣言。「小泉前政権の負の遺産」である地域間の経済格差や、直面する地方の支持基盤弱体化への対処を責務に挙げる。

県連は六日午後、県議会議事堂で常任総務会を開き、村上氏の会長就任を了承。冒頭、関谷氏が選挙戦の支援に謝意を述べ「捲土(けんど)重来を期してやりたい。決して引退するわけではない」と語った。

村上氏は今治市(旧越智郡宮窪町)出身。東大法学部卒。一九八六年衆院初当選(当選七回)。大蔵政務次官や衆院大蔵委員長、財務副大臣、行政・規制改革担当相などを歴任。高村派。

「『保守王国』で衆参両院の六議席の一角が今回、崩された。油断すれば、五、四、三と減りかねない」(別の国会議員)。体制の立て直しが叫ばれる背景には、党の地域支部や国会議員後援会の衰退に歯止めを掛けなければ、将来の当落にもつながりかねないとの懸念が感じ取れる。鍵を握る無党派層への働き掛けに加え、全国で二十三敗した農山漁村を中心とする「一人区」に向けた魅力ある政策を、県内でもどれだけ打ち出せるか。村上氏が支持団体幹部との会合定例化を構想しているのも、危機感の裏返しと言える。

自民党県連は伝統的に県議団が執行部を構成し主導している。衆院の小選挙区制導入から十年余り。党首選挙が定着化する中、国会議員である会長が従来以上にこまめに県内へ足を運んで県議団と連携し、有権者の実情をくみ上げていかなければ、足元が大きく揺らいでいる保守王国の再興は困難を伴うだろう。(東京支社・西山秀和)